

# イエスの生涯



## はじめに

「百貨店主と呼ばれたジョン・ワナメーカーはあるとき、伝道者ビリー・サンデーを案内して、自分の所有する大きな百貨店を見せ、こう言いました。『この店の中のものならば、何でもお好みにしたがって差し上げます』。しかしビリー・サンデーの求めたものは、『この世界最大のデパートの所有者の友情』でした。

今、多くの人々がモノを求めて、この世界にモノよりも尊いものがあることを忘れていきます。この世界を所有し、人を愛しておられる神の友情は人間の求め得る最高のものです。

あなたの選択は、あなたの生涯を決定するばかりでなく、家庭の幸福、社会の将来、国家の運命を決定するものとなります。今日、私たちの生活をきよめ、社会を救うのはイエス・キリストの福音よ

り他はありません。この救いの福音こそ、今日の全世界にあるすべての問題に対して完全な解決を与えるものです。たとえ困難があるようにみえても、神に従う道は喜びに満ちたものであり、その彼方には永遠の希望と神の栄光が輝いています」  
(山形俊夫)。

この通信講座は、キリスト教の背景のない人々のために山形俊夫博士によって著されたキリスト教入門書『真理への道』(福音社)を通信講座用に編集したものです。1952年(昭和27年)に発行された名著が65年ぶりに通信講座となつてよみがえりました。この通信講座を学ぶ皆様は、イエス・キリストにある恵みと救いの福音に触れることができるようにお祈りいたします。

### この講座を勉強する方へ

- ・もしお持ちであれば、聖書を手元に置いて学びをはじめてください。
- ・最初に本編をお読みください。
- ・設問用紙は真ん中のページにあります。ホッチキスを外すか、コピーしてください。
- ・設問用紙に答えを記入し、郵送・FAXなどでご返送ください。
- ・添削した設問用紙と次のテキストをお送りします。
- ・その他、具体的なことは、担当者にお問い合わせください。



# イエスの生涯



毎年、クリスマスが盛んに祝われていますが、これはイエスの降誕を祝う日です。もっとも実際にお生まれになった日はわからず、むしろ冬ではないと思われませんが、異教の習慣と結びついて世界中に広がったのです。

このイエス・キリストはキリスト教の中心です。

「イエスよりすぐれた人物があらわれるであろうか」との問いに對して、かつてロサンゼルス・タイムズの記者はこう答えました。

「1900年を過ぎた今日、なお彼に匹敵する人物は現れていない。彼の存在は独自であり、19世紀間を通じて、イエス・キリストの偉大さは減ずることなく、むしろ増している。今日かつてないほど人々の関心は、かのナザレ人に向けられている」

ナポレオンは次のように言った

と伝えられています。

「イエス・キリストは単なる人間ではなかった。アレキサンダー大王、カエサル、カール大帝や私は膨大な国家を建設した。我々のこの働きは何によつてなされたか、武力である。しかし、イエスはその働きを愛の土台の上に置いた。彼は人の心を要求する。それが無条件に受け入れられている。時もあるこの聖い炎を消し得ない。最高の幸福をもつて、人々を己がもとにひきつけている勝利者である」

イエスは今から約2千年前、ユダヤのベツレヘムに生まれました。そして33年半の地上での生涯を送られました。

イエスはあるとき、弟子たちに、「人々は人の子をだれと言っているか」という質問をされました。弟子たちは、「ある人々はバプテ

スマのヨハネだと言っています。

しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります」と答えましたが、当時、人々のキリスト観はまちまちだったのです。そこでイエスが弟子たちに「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」と、つつこんだ質問をなされたとき、シモン・ペテロは「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と答えました。

これはクリスチャンの信仰の基礎です。イエスは「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である」と言われました（マタイによる福音書16章13〜17節）。イエスを歴史的に偉大な人物、すぐれた宗教家とみる人は多くあ

りますが、神の子、人類の救い主と信じることは、天からの示しによらなければできないことです。キリストというのはギリシア語

で「油注がれた者」という意味で、ヘブル語のメシヤにあたる語です。ユダヤで預言者や祭司または王が選ばれたとき、油が注がれました。イエスというのはやはりギリシア語で、ヘブル語のヨシユアにあたる語ですが、「主（神）は救い」という意味です。降誕の前に天使がヨセフにあらわれて、「その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」（マタイによる福音書1章21節）と告げました。

## 降誕

イエスの降誕という世界歴史の最も大きな事件、人類全体に最大

の影響を及ぼした出来事は、今から約2千年前、ユダヤの国ベツレヘムという小さな町に起こりました。今のパレスチナにある町です。

そのとき、この出来事は、わずかの人にしか知られませんでした。人々は忙しく生活の営みに追われて、この出来事の重要さに気がつかなかったのです。ベツレヘムの町は、国勢調査のために故郷に帰る旅人の群れで、ごった返していました。貧しげな、若い2人の旅行者（ヨセフとマリヤ）をかえりみる人はなく、彼らはやつと家畜小屋を見つけて、その一隅に泊まったのですが、その夜イエスはそこで降誕されたのです。

救い主降誕のおとずれは天使たちによって、ベツレヘムの近くの野で、夜、羊の群れを守っていた羊飼いに伝えられました。

罪を犯して神から離れた人類は、罪の結果起こったいろいろな苦しみや悩みの中にあえぎながら、もっと良い世界を望んできました。神は人類を救うために、神の御子イエスを地上につかわす計画を立てられました。その計画は、預言者を通して、各時代にわたって人類の希望のおとずれとして語られてきたものでした。

羊飼いたちは人類の問題の解決者であり、人間の生活に希望と力となぐさめを与え、人間を罪から救ってくださる救い主の来臨を祈っていたのでした。そのとき、天の使いがあらわれました。「すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。御使は言った、『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、

あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。あなたがたは、幼子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう』(ルカによる福音書2章9〜12節)と聖書は記録しています。そして、そこに多くの天使たちがあらわれて、「いと高きところでは、神に栄光があるように、地上では、み心にかなう人々に平和があるように」(ルカによる福音書2章14節)と歌いました。

ユダヤの野にひびき渡ったこの賛美の中に、イエスを通して与えられる祝福——平和が告げられています。イエスを心に迎えるときに、すべての波風はおさまって、平和がのぞむのです。イエスを中心とした家庭に平和がのぞみます。キリスト教の精神の支配するところに、争闘はそのあとを断ち、平

和が来るのです。イエスは本当に「平和の君」として、平和を与えてくださる方です。

天の栄光が去ったとき、羊飼いたちはベツレヘムに行つて、救い主イエスを礼拝しました。

家畜小屋の飼い葉桶に寝かされたイエスを礼拝したほかの人々がいました。彼らは東の国の学者たちでした。富裕な階級に属し、学識があり、社会的に有力な人々でした。そして同時に真摯な真理の探究者でした。

神の光は異教徒の暗黒の中にも輝いていました。この学者たちは天文学を研究し、輝いた星の軌道の背後に秘められた神の栄光をながめていました。彼らはさらにはつきりした知識を求めて、聖書を調べました。

ベツレヘムの丘に神の栄光が満ちあふれたあの夜、彼らは天に不

思議な光を認めました。その光が消えさつたとき、明るい星があらわれしました。それは惑星でも恒星でもありませんでした。これが遠くにいた輝く天使の一群だったことは彼らにはわかりませんでした。

この現象に深く関心を刺激されて、古い文献を調べるうちに、彼らはバラムの預言の中から「ヤコブから一つの星が出、イスラエルから一本のつえが起り」(民数記24章17節)という言葉を見いだしました。そして救い主を礼拝するために出かけたのです。

当時の最高の知性の所有者も、名もない羊飼いか、等しく救い主イエスの前にひざまずいて、喜びに満たされた事實は、イエスがすべての人の心の求めにこたえらるることを象徴しています。イエスの降誕は本当に「すべての民に与えられる」喜びのおとずれであつ

たのです。

これはただ個人的な影響ばかりではありません。イエスの降誕がなかったら、世界の歴史はどのようになつていたでしょうか。キリストの精神のない世界にどんなことが行われてきたかを考えれば明らかでしょう。この世界は、今日よりはるかに、悪の潮流に流されてしまつていたにちがいありません。

ベツレヘムの美しい物語は、希望を失つた人々の心をあたたかにし、さびしい人の心に慰めと喜びを与えます。

星の輝くあの美しい夜空のもとで、飼葉桶の救い主を礼拝して、喜び、賛美した博士たちや羊飼いたちのような体験に、私たちも入りたいものです。

キリストの神性、先在

イエスについて注目すべき一つの点は、その神性です。

聖書はこのことについて、はっきり述べています。

「御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であつて、その力ある言葉をもつて万物を保つておられる」(「御子については、『神よ、あなたの御座は、世々限りなく続き、あなたの支配のつえは、公平のつえである』」(ヘブル人への手紙1章3、8節)。

イエスは完全に人間の性質をそなえておられました。また神の子であり、神であつたのです。ピリポが「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さいれば、わたしたちは満足します」と言つたとき、イエスは、「わたしを見た者は、父を見たのである」と言

## 【設問用紙の送り方】

- ・設問用紙に解答、名前、性別、住所など必要事項を明記の上、設問用紙のホッチキスを外すか、コピーやスキャンなどをしてご返送ください。

### ※郵便で送る場合

- ・市販の封筒、またはテキストに同封して送られてくる返信封筒で、次の宛先までお送りください。

〒 241-8501 横浜市旭区上川井町 846  
VOP バイブルスクール 行

1 課ずつではなく、一緒に送られてきた複数課の設問用紙をまとめてお送りいただいで結構です。

### ※ FAX で送る場合

- ・郵送同様、必要事項をご記入の上、解答面を間違わないように次の番号まで送信してください。

FAX 番号：045-921-2319

- ・設問用紙に、名前などの必要事項を明記いただければ、別紙（FAX 送付状）をつけていただく必要はありません。

### ※ E メールで送る場合

- ・解答面をスキャンするなどして、PDF または JPEG データでお送りください。内容が読み取れるか送信前にご確認ください。件名に「真理への道答案」と必ず明記してください。

アドレス：info@vopjapan.net

送信後、担当者から受信メールをお送りします。休日を除き72時間以内にメールが来ない場合は、受信できていない可能性がありますので、ご確認ください。

- ★どの方法で解答を返送していただいても、添削した設問用紙と次のテキストは郵送いたします。

ご意見、ご感想をお聞かせください。

フリガナ お名前	登録番号
ご住所 〒   電話番号 (            )	

## 第7課

### VOPバイブルスクール 真理への道講座・設問用紙

**質問1** ナポレオンは、なぜイエス・キリストは単なる人間ではなかったと言ったのですか。

- 奇跡をたくさん行ったから
- その働きを愛の土台の上においたから
- 偉大な説教で人々をひきつけたから

**質問2** クリスチャンの信仰の基礎は、イエスがどんなお方であることに置かれていますか。

- イエスは人類史上最もすぐれた宗教家である
- イエスは人類最大の偉人である
- イエスは「生ける神の子」である

**質問3** ベツレヘムの羊飼いたちは、どのような救い主を祈っていましたか。

- 戦争に強い救い主
- 貧しい人々に十分なパンを与えてくれる救い主
- 希望と力となぐさめを与え、罪から救ってくれる救い主

**質問4** なぜイエス・キリストは、十字架にかけられて死なれたのでしょうか。

- 人類の身代わりとなって、信じる者を滅びから救い出すため
- 捕まって逃げられなかったから
- ユダヤの人たちに嫌われたから

# 7

われました（ヨハネによる福音書14章8、9節）。イエスは「神のかたち」を示すために地上にいられたのです。イエスの生涯のうち、私たちは天地の主なる父なる神のかたちを見ることができません。イエスの十字架を見たローマの百卒長は、「まことに、この人は神の子であった」（マタイによる福音書27章54節）と言ったのです。

「イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。しかし、これらのことを書いたのは、あなたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである」（ヨハネによる福音書20章30、31節）。つまり、福音書が書かれた目的は、イエスが神の子であることを示し、人々に救いを得させるためでした。

またイエスは、「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思つて調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」（ヨハネによる福音書5章39節）と言われました。聖書を深く学ぶとき、イエスは神の子であることがわかります。4つの福音書は、地上におけるイエスの生涯の記録であり、そこにイエスの一つの汚点もない完全なご品性を見ることができません。

イエスを知らないと言ったペテロに対して愛の目を向けられた姿、裏切って銀貨30枚でイエスを売ったユダが、人々を導いて捕らえに来たときにも「友よ」と呼びかけられた寛容さ、十字架につけて嘲弄する人々のことを、「父よ、彼らをおゆるしく下さい。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」（ルカによる福音書23

章34節）と祈られた言葉のうちに、尊い神の子としての姿を見ることができません。

4つの福音書の中には、キリストの行われた30以上の奇跡が記されていますが、これはキリストの神性を証拠立てるものです。

また山上の説教をはじめ多くのたとえ話や教訓を語られました、その一つひとつに神の知恵が輝き出ているのを感じます。どんな時代にも、いかなる環境にも、決してすたることのない不変の真理が語られています。「天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない」（マタイによる福音書24章35節）と言われたように、その言葉は、今日においても、悩みの多い人生のともしびれとなって、人々の心を慰め、正しい道を教えているのです。

天の父なる神は、イエスの神性

について、福音書の記録によれば、二度人々の前に示されました。

「また天から声があつて言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』」  
「それはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け」  
（マタイによる福音書3章17節、17章5節）と記されています。

パウロはイエスの神性について、次のように書いています。「キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた」（ピリピ人への手紙2章6、7節）。

「キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており」（コロサイ人への手紙2章9節）。

「キリストは万物の上であり、永遠にほむべき神なり」（ローマ人への手紙9章5節、文語訳）。

使徒ヨハネは、「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であつて、めぐみとまことに満ちていた」（ヨハネによる福音書1章14節）とあかししています。

キリストは今から約2千年前にユダヤのベツレヘムに生まれ、30年あまりの地上の生活を送り、紀元31年に十字架にかかられました。しかし聖書は、イエスが世の初めから存在しておられたことを示しています。これを「先在」といっています。十字架にかけられる前の最後の祈りの中に、「父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわ

たしを輝かせて下さい」（ヨハネによる福音書17章5節）との言葉があります。

「御子（キリスト）は、見えないう神のかたちであつて、すべての造られたものに先だつて生れたかたである。万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあつて造られたからである。これらいつさいのものは、御子によつて造られた。御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあつて成り立っている」（コロサイ人への手紙1章15、17節）  
という言葉によると、キリストは神であり、万物を創造されたことがわかります。

キリストについての預言

今から約2千年前ユダヤのベツ

レヘムに生まれたイエスが、真の神であり、この世の救い主であったことの有力な客観的証拠の一つは、イエスについての多くの預言です。旧約聖書には来たるべき救い主は、いつ、どこに、どんな状態で生まれるか、またどんな働きをされるかが詳しく示されています。救い主の来臨は、人間の希望のみならず、神の約束でした。

その中の著しいものをあげてみましょう。

降誕の場所について、「ベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの氏族のうちで小さい者だが、イスラエルを治める者があなたのうちから／わたしのために出る」（ミカ書5章2節）とありますが、多くの地上の場所が考えられる中で、この小さな町が指示されていたのです。

イザヤ書7章14節には、「それ

ゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる」とあり、処女降誕は救い主の一つのしるしでした。

降誕の直後に起こったベツレヘム付近の幼児の殺戮（さつりく）については、エレミヤが預言していました（エレミヤ書31章15節）。

イエスが救い主としての仕事を始める時期については、ダニエル書9章に詳しく預言してありました。これによってイエスが紀元27年にバプテスマを受けて公生涯に入られることが示されていたのです。

神に選ばれて、福音宣教の使命を担っていたユダヤ民族が、イエスをいかに迎えるかについて、「彼は侮（あは）れられて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。ま

た顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった」（イザヤ書53章3節）と言われていましたが、新約聖書の記録を見ると、その通りであったことがわかります。すなわち、ヨハネによる福音書1章10、11節に、「彼は世にいた。

そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった」とあります。

イエスは葬られて後、3日目によみがえられました。詩篇16篇10節にこのことが預言されています。「あなたはわたしを陰府（よみ）に捨ておかれず、あなたの聖者に墓を見させられないからである」

そのほか、数多くの預言が与えられて、それが一つ残らず的確に成就したことは驚くべきことです。

ある人々は、これらの預言はキリストの後に書かれたものではないかと疑いますが、旧約聖書が紀元前に書かれたことについては疑う余地がないのです。

救い主としてのイエス

「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」（マタイによる福音書20章28節）。

神であるキリストが地上にいられたのは、罪を犯して死の運命にある人類を贖う<sup>あがな</sup>ためでした。神の律法を犯した人類は、死の宣告を受けたのですが、イエスは自ら人類の身代わりとなって十字架の上<sup>上</sup>に生命を捨て、信じる者を滅びから救い出してくださいましたのです。

キリストの十字架上の苦しみは、

罪人である私たちのための身代わりとしてなされたのです。ルカによる福音書15章に語られた失われた羊のたとえのように、多くの世界のうち、この地球ただ一つが失われたのです。しかし99匹の羊をおいて、ただ1匹の失われた羊をさがしに出ていった羊飼いのように、イエスはあらゆる苦しみをしたので、私たち一人ひとりを求めてくださいましたのです。またイエスはこの地上で罪人が、あなた一人であったとしても、そのために十字架にかかってくださいるお方です。イエスはあなたの、また私の救い主なのです。何の価値もない、神に反逆した者のために生命を与えてくださいましたのです（ローマ人への手紙5章6〜8節）。

ベツレヘムの飼い葉桶からカルバリーの十字架に続く、血にいろどられたイエスの生涯は、悩みと

苦難の体験でした。それによってイエスは人間の真の同情者、真の友となられたのです。

イエスの生涯は十字架で終わりませんでした。イエスご自身しばしば語られていたように、復活された後、天に昇られました。そして今、神の御座<sup>みざ</sup>において、私たちのために罪のとりなしをし、また聖霊を通して常に私たちとともにいてくださるのです。

イエス・キリストはキリスト教の信仰の中心です。イエスを知り、イエスを愛し、イエスによって生きていく生活こそ、全きクリスチヤンの生活なのです。



聖書の視点で歴史を見直すとき、  
今をどう生きるかを学び、  
明日への希望を見いだします。

#### 明日への希望

エレン・G・ホワイト著

A5判／1,984頁

収録されている本——人類のあけぼの(上・下)、国と指導者(上・下)、  
各時代の希望(上・中・下)、患難から栄光へ(上・下)、各時代の大争闘  
(上・下)、キリストの実物教訓、キリストへの道、祝福の山。



#### キリストへの道(改訂第3版文庫判)

エレン・G・ホワイト著

文庫判／184頁

手軽に読めます！

#### 各時代の希望

エレン・G・ホワイト著

3巻セット

文庫判／上巻496頁、中巻512頁、下巻504頁



聖書のことばは、  
わたしたちを励まし、助け、希望へと導く宝です

#### みことば手帳

手帳サイズ(横91mm×縦156mm)／192頁



#### みことば手帳2 全員参加伝道編

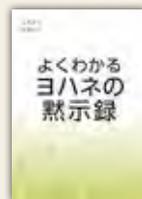
手帳サイズ(横91mm×縦156mm)／176頁

聖書を直接学ぼう！

#### よくわかるヨハネの黙示録

金棋坤著 柳鐘鉉訳

A5判／200頁



発行：福音社

福音社のオンラインショップ <https://www.fukuinsha.com>

表紙写真MaCC/PIXTA

VOPバイブルスクール 真理への道講座

第7課 イエスの生涯

2017年10月15日 初版第1刷発行 2022年7月15日 初版第3刷発行

〒241-8501 横浜市旭区上川井町846 045-921-1416(電話) 045-921-2319(Fax)

本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。

本書は、『真理への道』(山形俊夫著、福音社、1962年発行改訂版)を底本として、聖書通信講座用に編集しました。  
本文中の聖句で特記していない箇所は日本聖書協会発行『口語訳聖書』を使用しています。

1000p

## 真理への道講座

- 第 1 課 人生の謎
- 第 2 課 目に見えない世界
- 第 3 課 解決の鍵、聖書
- 第 4 課 世界と生命の起源
- 第 5 課 神
- 第 6 課 人生を暗くするもの
- 第 7 課 **イエスの生涯**
- 第 8 課 放蕩息子
- 第 9 課 だれでも新しく生まれなければ
- 第 10 課 足りない一つのもの
- 第 11 課 人生の苦難
- 第 12 課 主にゆだねた生活
- 第 13 課 聖書の歴史観
- 第 14 課 世界の将来
- 第 15 課 終末は近いか
- 第 16 課 安息日
- 第 17 課 死の彼方
- 第 18 課 使命を持つ教会